

# CH-101型航空機の準備状況について



# CH-101型航空機の準備状況について

年度		19年度						20年度						21年度																		
月		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
航空機製造状況等	1号機	▼ 9/29 納入 ▼ 10/2 領収空輸 (川崎重工業岐阜工場→岩国航空基地)																														
	2号機							川崎重工業において製造中						▼ 6/30 契約納期																		
試験等計画		性能試験						▼ 3/27 部隊使用承認						第51次行動																		
								運用試験						各種訓練、発着艦運用試験等																		

性能試験: 取得した航空機が要求性能に適合し、かつ、使用目的に適合するか否かについて評価するために行う試験

運用試験: 航空機の有効な運用法の開発に資するための資料を得るために行う試験

部隊使用承認: 航空機の部隊使用について防衛大臣の承認を得ること

## 要求性能要約

- 物資量約650tを2機のヘリコプターにより昭和基地へ空輸できること。
- 3t以上の物資を搭載し、約140マイルを輸送した後、無給油で発進地に帰投できること。
- 1梱包の最大寸法約1.8m(幅)×1.4m(高さ)×5m(長さ)が機内搭載可能であること。

幅・高さが限定できる機内搭載物の最大長は6.4mであること。
- スリング輸送は、重量2t以上が可能であること。
- ヘリクレーンの用法においては、重量4t以上の運用が可能であること。
- 着陸時の最低地上高は、33cm以上であること。
- ランプドア、カーゴドアが装備されていること。

# 第51次南極地域観測「しらせ」輸送計画(素案)

資料12  
第132回  
南極地域観測統合推進本部総会  
H20.7.10

総行動日数	158日(予定)
南極圏行動日数	106日(予定)
総航程	約23,000マイル

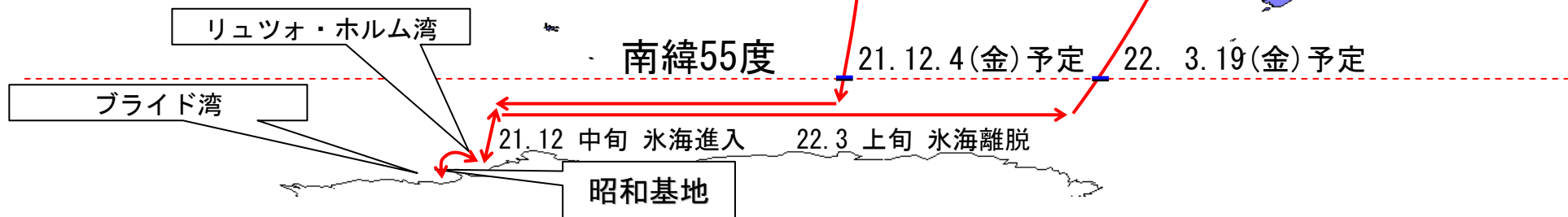
※総行動日数及び南極圏行動日数については、新南極観測船「しらせ」の氷海域諸性能試験にかかる想定所要日数7日間を含む。(本日数は、今後、平成21年度概算要求の結果等を踏まえ変更されることがある。)

東京(晴海)
21.11.10(火) 出港(予定)
22.4.16(金) 入港(予定)

※東京、フリーマントル及びシドニーの出入港、南緯55度通過日は、現在の総行動日数を前提としたものであり、今後変更されることがある。

フリーマントル
21.11.24(火) 入港(予定)
21.11.29(日) 出港(予定)

シドニー
22.3.24(水) 入港(予定)
22.3.30(火) 出港(予定)



## 平成 2 0 年度南極地域観測事業関係予算の概要

(単位：百万円)

事 項	前 年 度 予 算 額	平 成 2 0 年 度 予 算 額	対前年度 比較増△減額	備 考
観測隊員経費	88	73	△15	・ 極地観測手当 ・ 観測隊員派遣旅費
観測部門経費	155	206	51	・ 定常観測経費
海上輸送部門経費 <sup>1</sup>	5,839	4,382	△1,457	・ オーロラオーストラリスの運航費 ・ 次期輸送用ヘリコプター購入費
本部経費	23	22	△1	・ 本部総会開催経費等
南極地域観測船建造費 <sup>2</sup>	7,664	9,828	2,164	・ 次期南極地域観測船建造費
小 計 (A)	13,769	14,511	742	
国立極地研究所 観測部門経費 ・ 研究観測経費 ・ 外国共同観測費 設営部門経費 ・ 基地等設営経費	1,435	1,435	0	
小 計 (B)	1,435	1,435	0	
計 (A+B)	15,204	15,946	742	

<sup>1</sup> 次期輸送用ヘリコプター2号機購入費 2,588 百万円（4年国債の3年度）を含む

<sup>2</sup> 次期南極地域観測船建造費 9,697 百万円（5年国債の4年度）

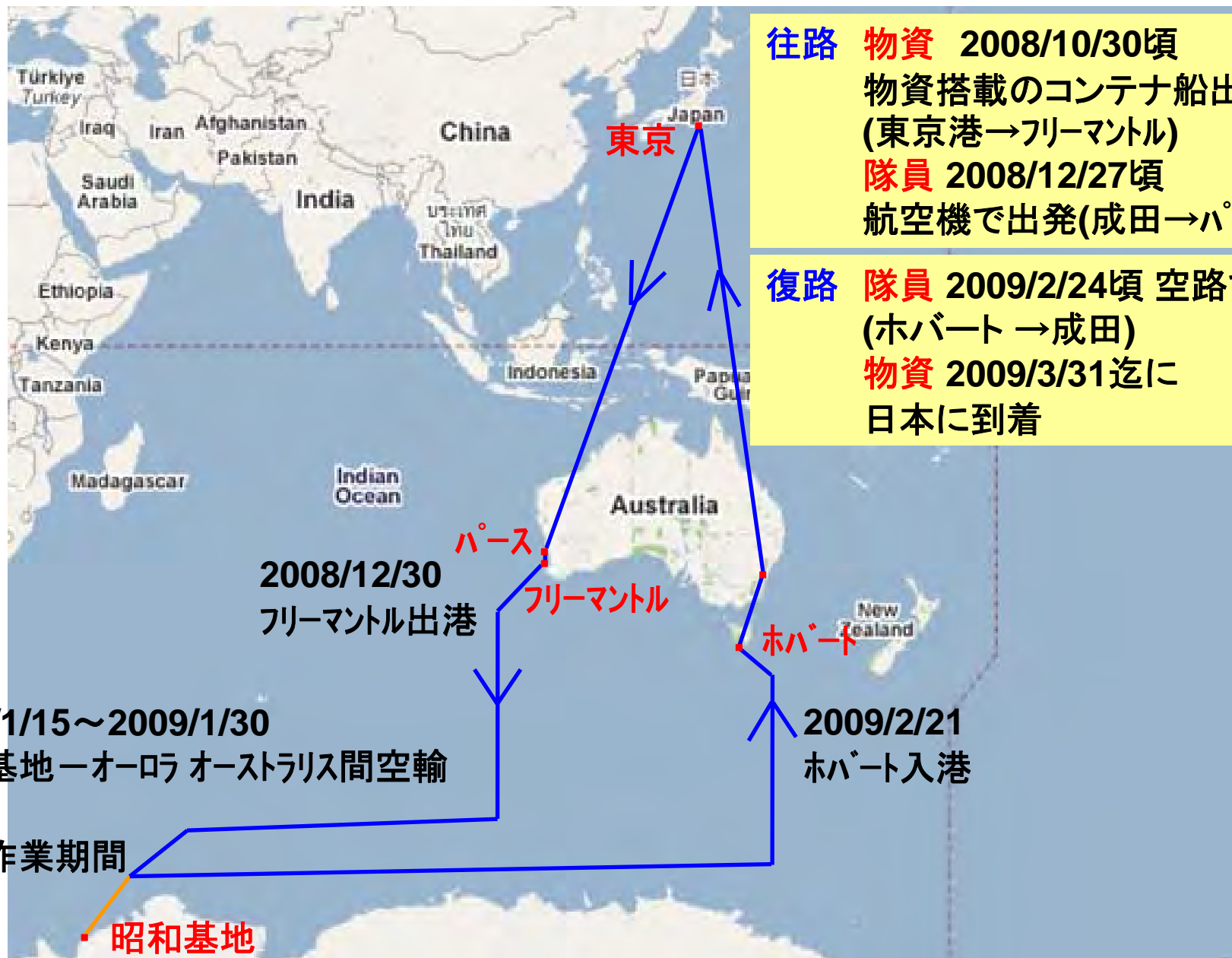
# 第50次隊輸送計画 (案)

資料14

第132回

南極地域観測統合推進本部総会

H20.6.30



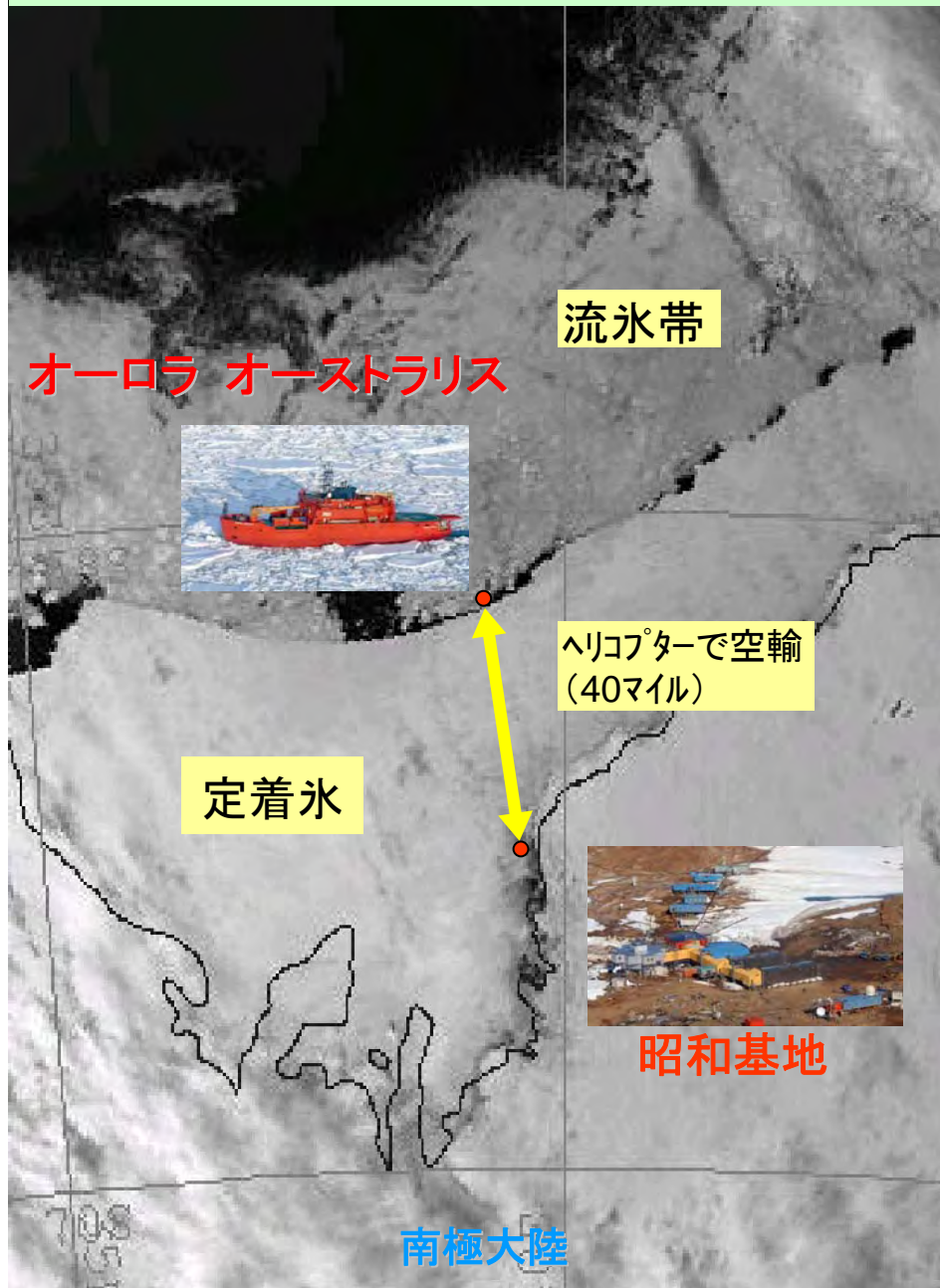
**往路** **物資** 2008/10/30頃  
物資搭載のコンテナ船出航  
(東京港→フリーマントル)  
**隊員** 2008/12/27頃  
航空機で出発(成田→パース)

**復路** **隊員** 2009/2/24頃 空路で帰国  
(ホバート→成田)  
**物資** 2009/3/31迄に  
日本に到着

2009/1/15～2009/1/30  
昭和基地ーオーロラ オーストラリス間空輸  
及び  
夏期作業期間

昭和基地

# 物資の空輸（定着氷縁～昭和基地）



昭和基地から約40マイルの定着氷縁から3機のヘリコプターによる空輸を実施する。

## 輸送用ヘリコプターの仕様



S76（2機使用）  
胴体全幅 2.13m  
胴体全長 13.22m  
全高 4.41m

80マイルの距離を機内輸送なら915kg、  
吊り下げ輸送なら800kg輸送可能（基本は機内輸送）



AB350B2（1機使用）  
胴体全幅 1.80m  
胴体全長 10.93m  
全高 3.14m

80マイルの距離を吊り下げ輸送で600kg輸送可能

# 第50次隊の物資量概算

物資は、東京港の倉庫でコンテナに収納し、コンテナ船でフリーマントルまで輸送、フリーマントルでオーロラ オーストラリスに搭載する。

	物資重量	容積	備考
越冬隊 (28名)	約72ton	約258m <sup>3</sup>	観測用機材、バルーン、食料品、薬品、図書、セメント、スチールコンテナ、ガスボンベ
夏 隊 (12名)	約5ton	約22m <sup>3</sup>	船上観測機器、観測用機材、文具
合 計 (40名)	約77ton	約280m <sup>3</sup>	物資はすべて20フィートコンテナに収納する。



## 20フィートコンテナ

外寸 6058x2438x2591mm

内寸 5890x2350x2390mm

(5486x2270x2234mm)

自重 2.3 ton(2.8ton)

最大総重量 20ton~30ton

※( )内は保冷コンテナ

20フィートコンテナ数：18台

※食料品用保冷コンテナの冷凍コンテナ(-0°C)

2台, 冷蔵コンテナ(+5°C) 1台, 冷房コンテナ

(+15°C) 2台を含む。



# オーロラ オーストラリス



- ・ オーストラリア初の砕氷型船舶
- ・ P & O社が所有し、オーストラリア政府が傭船契約によって南極観測に使用している。
- ・ 第50次隊の往路、第50次夏隊と第49次越冬隊の復路の輸送を担当する。

全長	94.91m
幅	20.30m
深さ	13.25m
排水量	7,880 t
軸数等	1軸1舵
最大速力	16.8ノット(30km/h)
砕氷能力	厚さ1.23mを2.5ノット(4.6km/h)で砕氷
竣工	1990年



## 第 50 次南極地域観測実施計画（案）

平成 20 年度の第 50 次南極地域観測隊の観測計画は、平成 17 年 11 月の第 127 回南極地域観測統合推進本部総会で決定された「南極地域観測第Ⅶ期計画」を基本に、その 3 年次の計画として位置付けられる。第Ⅶ期計画では、我が国が戦略的に推進している「全球地球観測システム（GEOSS）10 年実施計画」（2005－2014 年）を踏まえ、現在ならびに過去の地球システムに南極域が果たす役割と影響の解明を目指す。また、第 50 次観測期間の平成 21 年 3 月までは、国際的な極域の科学計画である「国際極年（IPY 2007－2008）」が実施されており、我が国としてもこれに貢献する責務がある。一方で、第 49 次隊での観測船「しらせ」退役と、第 51 次隊からの新「しらせ」就航の間で、代替船輸送（オーストラリアの「オーロラ オーストラリス」）による夏期オペレーションの実施となる。しかし、「オーロラ オーストラリス」船上での共同観測の他、航空機を利用して南極地域へアプローチして観測する計画、東京海洋大学の「海鷹丸」による南大洋における共同観測や外国基地における共同観測を計画し、我が国独自の観測船を使用しないことによる観測事業への影響を極力少なくするよう実施する。

第 50 次観測実施計画は、観測計画と観測を支える設営計画からなる。越冬期間及び夏期間における、観測計画及び設営計画の一覧は、別表の通りである。

なお、第 50 次隊は、越冬隊 28 名、夏隊 18 名、合計 46 名で構成される。

### I. 観測計画

- 定常観測は、四つの機関により五つの部門の計画を、ほぼこれまでと同様に継続して実施する。
- 研究観測については、重点プロジェクト研究観測、一般プロジェクト研究観測、モニタリング研究観測及び萌芽研究観測の四つのカテゴリーから構成される。
  - ・ 重点プロジェクト研究観測については、「極域における宙空－大気－海洋の相互作用からとらえる地球環境システムの研究」の 3 年次として、学問分野を越え、分野を横断した緊密な連携のもとで、地球全体を一つのシステムとして捉え地球環境問題を理解・解明する観測を実施する。本課題遂行の上では、①「極域の宙空圏－大気圏結合研究」と、②「極域の大気圏－海洋圏結合研究」の二つのサブテーマが設けられている。サブテーマ①では、下部熱圏探査レーダーによる観測を開始する。サブテーマ②では、東京海洋大学との「海鷹丸」共同観測運用として、南極海の二酸化炭素の吸収過程及び硫化ジメチルの生成過程の研究観測を実施する。
  - ・ 一般プロジェクト研究観測は、第Ⅶ期で計画している合計六つのテーマの内、

以下の三つのプロジェクトを実施する。すなわち①「極域環境変動と生態系変動に関する研究」では、オーストラリア南極局との国際共同観測による海洋生物センサス計画を実施する。氷海内の観測は、「オーロラ オーストラリス」で、開放水面での観測は、「海鷹丸」で実施される。また、ペンギン類の捕食動態の観測は、外国共同観測の枠組みにおいてイギリス基地で行う。②「超大陸の成長・分裂機構とマンツルの進化過程の解明」では、セールロンダーネ山地露岩域の地質調査をベルギーの協力を得て夏期に行う。この計画に関わる隊員の南極との往復は航空機により実施する。③「極域環境下における医学・生理学的研究」は、第Ⅵ期計画を継続し、昭和基地において越冬隊員を対象とした計画を行う。

- ・ モニタリング研究観測では、前年とほぼ同様な以下の五つの観測計画を継続して実施する。①「宙空圏変動のモニタリング」、②「気水圏変動のモニタリング」、③「地殻圏変動のモニタリング」、④「生態圏変動のモニタリング」、及び⑤「地球観測衛星による環境変動のモニタリング」である。
- ・ 萌芽研究観測として、「南極昭和基地大型大気レーダー計画」では、将来的な大型大気レーダー設置計画に向けて、南極環境に耐えるアンテナシステムの諸試験を実施する。

## II. 設営計画

昭和基地の維持を優先とし、第 49 次隊と第 50 次隊の越冬交代を最優先とする。

「オーロラ オーストラリス」の昭和基地沖合での滞在期間は 2 週間程度を予定しており、この間に食料を中心とした第 50 次越冬隊用の物資を昭和基地へ輸送するとともに、第 49 次越冬隊員及び持ち帰り物資の収容を行う。なお、第 50 次隊では輸送量に大幅な制限を受けるため、第 49 次隊までに備蓄燃料等の事前輸送を終えている。そのため、今次隊の輸送計画量は、例年の 10 分の 1 以下を予定している。また、第 51 次隊より新「しらせ」が就航することに伴う、新たな輸送体制の導入に備えた最終的な事前準備を実施する。

## 第50次南極地域観測実施計画（案）

### 1. 越冬観測

区分	観測項目・観測計画名	部門・研究領域	担当機関
定常観測	①電離層定常観測（電離層観測、オーロラレーダ観測、リオメータ吸収測定） ②リアルタイムデータ伝送 ③長波標準電波電界強度測定	電離層	情報通信研究機構
	①地上気象観測 ②高層気象観測 ③オゾン観測 ④日射・放射観測 ⑤特殊ゾンデ観測 ⑥天気解析 ⑦その他の観測（ロボット気象計観測、調査旅行中の気象観測）	気象	気象庁
	①潮汐観測	潮汐	海上保安庁
研究	◎極域における宙空－大気－海洋の相互作用からとらえる地球環境システムの研究		国立極地研究所
	(1) 極域の宙空圏－大気圏結合研究	宙空圏 気水圏	
	(2) 極域の大気圏－海洋圏結合研究	気水圏	
一般プロジェクト	1) 極域環境下におけるヒトの医学・生理学的研究	生物圏	国立極地研究所
観測	1) 宙空圏変動のモニタリング	宙空圏	国立極地研究所
	2) 気水圏変動のモニタリング	気水圏	
	3) 地殻圏変動のモニタリング	地圏	
	4) 生態系変動のモニタリング	生物圏	
	5) 地球観測衛星データによる環境変動のモニタリング	学際領域(共通)	
萌芽	1) 南極昭和基地大型大気レーダー計画	宙空圏 気水圏	

### 2. 夏期観測

区分	観測項目・観測計画名	部門・研究領域	担当機関
定常観測	①海況調査 ②海洋汚染調査 ③南極海における南極周極流並びに深層循環の観測	海洋物理 海洋化学	海上保安庁
	①測地測量（精密測地網測量、GPS連続観測、重力測量） ②世界測地系地形図作成	測地	国土地理院
研究	◎極域における宙空－大気－海洋の相互作用からとらえる地球環境システムの研究		国立極地研究所
	(1) 極域の宙空圏－大気圏結合研究	宙空圏 気水圏 生物圏	
	(2) 極域の大気圏－海洋圏結合研究	気水圏 生物圏	
一般プロジェクト	1) 極域環境変動と生態系変動に関する研究 （オーストラリアとの共同）	生物圏	国立極地研究所
	2) 超大陸の成長・分裂機構とマンツルの進化過程の解明 （ベルギーとの共同）	地圏	
観測	1) 宙空圏変動のモニタリング	宙空圏	国立極地研究所
	2) 気水圏変動のモニタリング	気水圏	
	3) 地殻圏変動のモニタリング	地圏	
	4) 生態系変動のモニタリング	生物圏	
萌芽	1) 南極昭和基地大型大気レーダー計画	宙空圏 気水圏	

### 3. 外国共同観測

区分	観測項目・観測計画名	部門・研究領域	担当機関
一般プロジェクト研究観測	1) 西南極地域における環境変動と生態系変動に関する研究 【バード島基地：平成19～20年度の2か年計画】（英国との共同）	生物圏	国立極地研究所

### 第50次観測隊 設営部門計画（案）

実施計画(案)概要	①道路整備工事（コンテナード～見晴らし陸送起点間およびコンテナヤード～Cヘリポート間） ②衛星受信棟の暖房用燃料タンク設置、ヘリポート待機小屋建設、 第1・第2夏期宿舍間の給・排水工工事の調整・測量 ③西部地区ケーブルラック工事、燃料移送配管漏油センサー取り付け工事（夏期～越冬） ④観測棟の空調改修、火災表示盤更新工事（越冬中） ⑤51次隊からの輸送に使用する雪上車、橇、フォークリフトなどの整備および運用試験。 ⑥作業棟、機械・建築倉庫などの内部整理。屋外に保管されていた物品を整理しつつ倉庫に収納し、 屋外保管品を極力減らす。 ⑦越冬生活において、健全な食生活および健康管理（野菜栽培、食材管理、廃棄物の減少、健康診断）。 ⑧内陸および昭和基地周辺の沿岸域に置かれている施設および野外観測地から、不要物の移動・集積。
-----------	--

部門別	主な作業	主な搬入物品	隊員予定数		備考
			越冬	夏	
機械	(夏期作業) ・燃料移送配管漏油センサー取り付け工事 ・第1・第2夏期隊員宿舍および污水处理装置間の給排水管敷設工事および測量 ・西部地区ケーブルラック工事  (越冬作業) ・衛星受信棟暖房用燃料タンク設置工事 ・観測棟空調改修工事 ・火災表示盤更新工事 ・屋外保管物品の倉庫への移動および整理 ・51次輸送および内陸旅行のための雪上車・橇・フォークリフトなどの走行試験 ・燃料備蓄用ドラム缶、燃料容器の整理	・火災表示盤 2面 ・漏油センサー 1式 ・観測棟空調設備 1式 ・その他の緊急物品	6		
建築・土木	(夏作業) ・道路整備（コンテナード～見晴らし陸送起点間及びコンテナード～Cヘリポート） ・ヘリポート待機小屋兼管制室の建設 ・衛星受信棟燃料タンクの基礎工事  (越冬作業) ・各建物の不具合個所の修理、不要品の整理	・セメント ・道路整備用資材	1	2	
通信	・無線通信回線運用 ・各種通信機器の保守		1		
医療	・医療業務	・医薬品、医療機器	2		
調理	・夏期隊員宿舎での調理 ・越冬調理	・越冬食糧 ・予備食	2		
環境保全	・夏期廃棄物処理、夏期用浄化槽の運用 ・越冬廃棄物処理、越冬用浄化槽の運用	・フレキシブルコンテナ ・スチールコンテナ	1		
多目的アンテナ	・大型アンテナ及びレドーム保守 ・インテルサットアンテナ保守支援	・保守部品	1		
LAN・インテルサット	・昭和基地のLAN運用・保守 ・インテルサット衛星通信の運用・保守 ・通信運用・保守支援	・保守部品	1		
フィールドアシスタント 装備	・野外調査補助 ・装備品の運用・管理	・個人装備 ・共同装備	1	1	夏期はセルロング・ネ
輸送	・輸送全般			2	1名は夏副隊長が兼務
庶務 情報発信	・公式文書の管理、各種事務手続き、隊長業務補佐 ・輸送業務、公報 ・通信運用支援		1	1	

# 第50次隊の観測計画概要



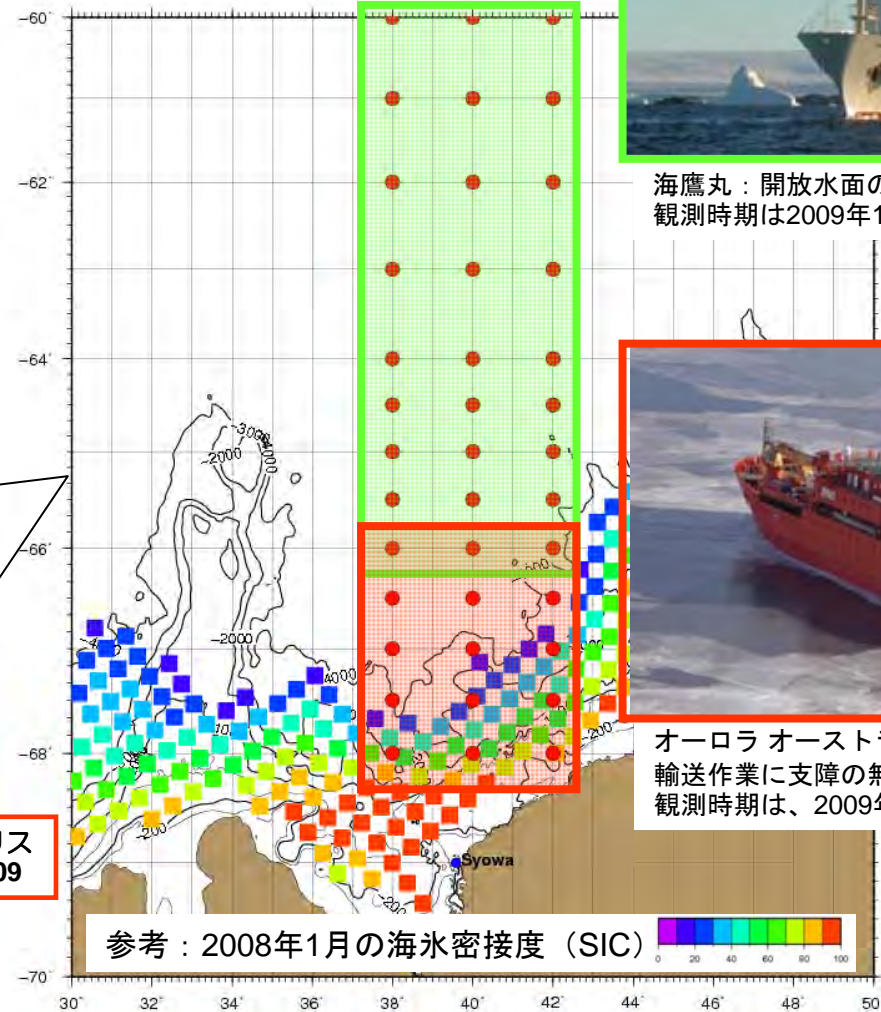
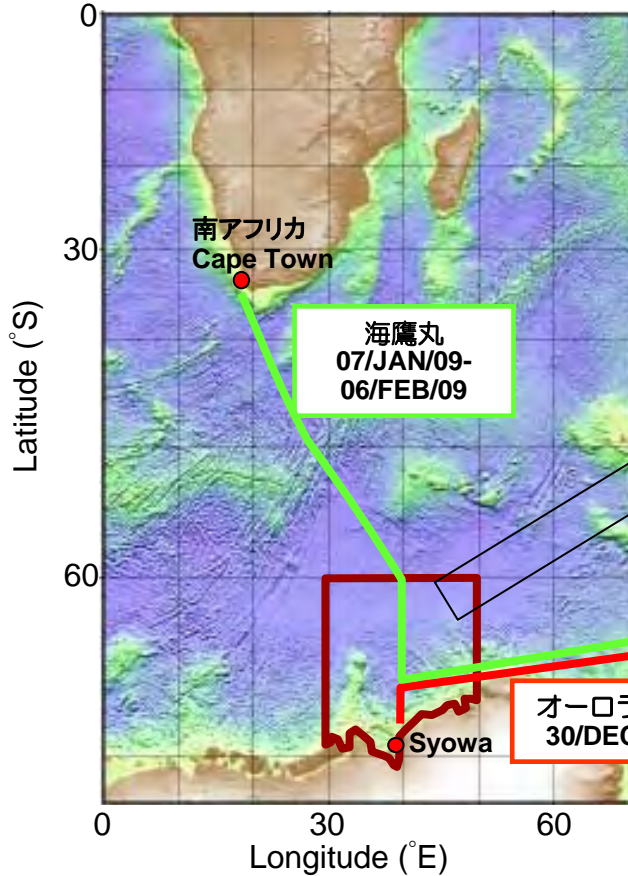
# 第50次観測計画：南極海生態系の形成に関する国際共同研究観測

## 極域環境変動と生態系変動に関する研究＜平成20年度夏期の2船同時観測＞

南極のプランクトンの生産活動が活発な夏期に海氷域の観測を行う。  
これまで観測が充分行われていなかった、リュツォ・ホルム湾季節海氷域における生物群集構造を精査する。  
・これまでに分布域が不明だった種を明らかにする観測  
・オーストラリアの観測域(ブリッツ湾やアデリー海岸沖)との比較観測

各国の観測結果と比較し、各種海洋生物の南極海全体における分布を明らかにする。

### 南極海生態系の形成を解明する IPY課題・CAMLへの貢献



海鷹丸：開放水面の観測  
観測時期は2009年1月中・下旬



オーロラ オーストラリス：氷海域の観測を  
輸送作業に支障の無い範囲で実施する。  
観測時期は、2009年1月下旬

# 第50次観測計画：超大陸の成長・分裂機構とマントル進化過程の解明 (セールロンダーネ山地地質調査計画)

計画概要：昭和基地から西に約600km離れたセールロンダーネ山地において、49次・50次・51次の3カ年の夏期間に野外地質調査をおこなう。50次隊ではケープタウンよりDROMLANを利用して空路で現地入りし、スノーモービルとテントを用いて野外調査を実施する。



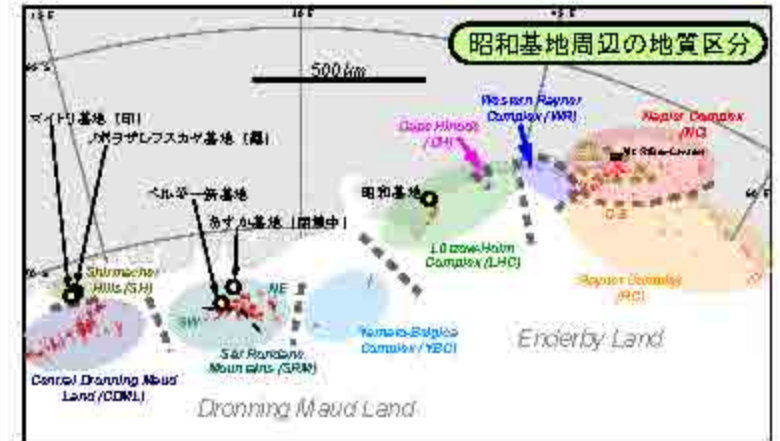
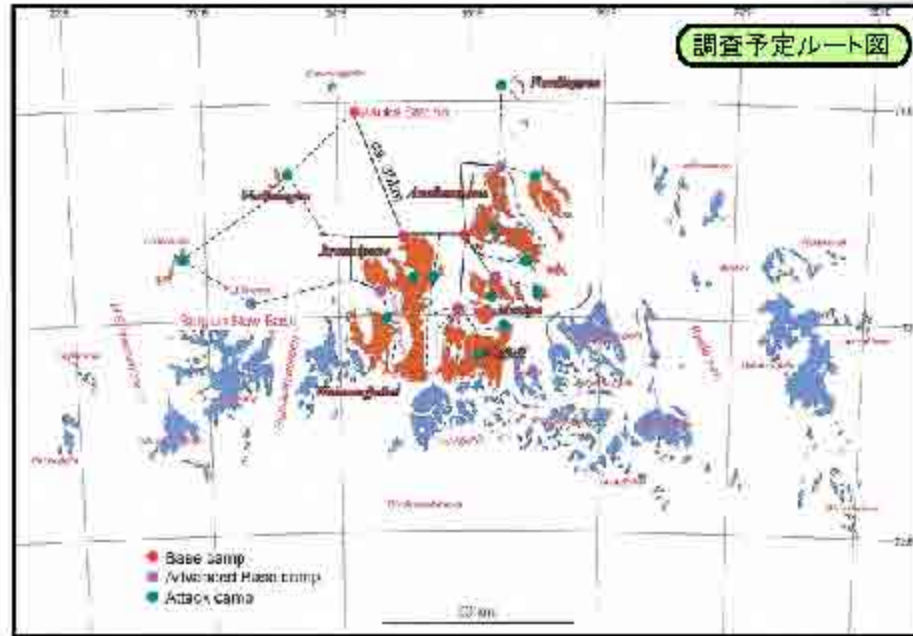
大陸成長と超大陸の形成、それに伴う変成作用・火成活動・流体活動を統合的に理解するためのモデルフィールドであり、東西 Gondwana 縫合イベントの鍵となる地域



## 観測テーマ

### ◆原生代後期大規模火成活動の解明

- ・全岩化学組成とマグマ成因論
- ・火成活動と変成作用のリンク
- ・年代論とテクトニクス



1984~1991年 (JARE-25 ~ 32) にかけて、セールロンダーネ山地地域での地学調査がおこなわれ、基本的な地質データの報告と全域を網羅する地質図が作成されている。





資料 16

第 132 回

南極地域観測統合推進本部総会

H20. 7. 10

# 第 50 次南極地域観測隊員等(案)

## 第50次南極地域観測隊員等名簿

区分	隊員数	既に決定した者	今回決定する者	計	未決定者
越冬隊	28人	1人	26人	27人	1人
夏隊	18人	3人	13人	16人	2人
計	46人	4人	39人	43人	3人

### ○越冬隊

平成20年7月10日現在

区分	担当分野	氏名 <small>ふりがな</small>	年齢	所属	隊員歴等	現住所	備考
	副隊長 (兼越冬隊長)	かどくらあきら 門倉 昭	49	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所研究教育系	第30次越冬隊、第44次越冬隊	東京都中野区	本部決定済み
定 常 観 測	電離層	うめつまさみち 梅津 正道	45	独立行政法人 情報通信研究機構	第32次越冬隊、第48次越冬隊	埼玉県吉川市	
	気象	すがやじゅうへい 菅谷 重平	41	気象庁観測部	第41次越冬隊	東京都東村山市	
	〃	どいひかる 土井 ひかる	34	気象庁観測部		東京都足立区	
	〃	たつみひろし 辰己 弘	34	気象庁観測部		茨城県つくば市	
	〃	こもりともひで 小森 智秀	31	気象庁観測部		茨城県ひたちなか市	
	〃	いとうさとし 伊藤 智志	31	気象庁観測部		茨城県つくば市	
研究観測		たけだやすお 武田 康男	48	千葉県立東葛飾高等学校		千葉県柏市	
		かがわひろゆき 香川 博之	44	金沢大学大学院自然科学研究科		石川県金沢市	
		むらかみゆうすけ 村上 祐資	29	東京大学大学院工学系研究科		神奈川県横浜市	
		たかはしこうすけ 高橋 幸祐	29	気象庁地磁気観測所		茨城県石岡市	

区分	担当分野	氏名	年齢	所属	隊員歴等	現住所	備考
設 営	機 械	もり ぐち かず お雄 森 口 和 雄	35	ヤンマー株式会社 特機エンジン事業本部	第42次越冬隊	兵庫県西宮市	
	"	いがらし てつ や 五十嵐 哲 也	34	株式会社日立製作所 情報制御システム事業部	第46次越冬隊	茨城県日立市	
	"	ふく だ しん いち 福 田 慎 一	33	株式会社関電工中央支店	第48次夏隊	栃木県下都賀郡野木町	
	"	き つか たか ひろ 木 塚 孝 廣	32	いすゞ自動車株式会社 パワートレイン製造第一部	第48次夏隊	栃木県下都賀郡野木町	
	"	おお だいら ただし 大 平 正	31	株式会社大原鉄工所 生産統括部		新潟県小千谷市	
	"						
	通 信	はた なか こう じ 畑 中 浩 二	45	総務省北海道総合通信局		北海道札幌市	
	調 理	しの はら よう いち 篠 原 洋 一	46	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所事業部	第33次越冬隊	神奈川県横浜市	
	"	むぎ さわ きょう すけ 麦 沢 京 介	31	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所事業部		神奈川県川崎市	
	医 療	いの くち ま り 井 口 ま り	50	長野県立こども病院		長野県安曇野市	
	"	もり かわ けんたろう 森 川 健太郎	36	昭和大学救急医学講座		東京都品川区	
	環境保全	か とう ひろ のり 加 藤 凡 典	51	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所事業部	第31次越冬隊、第44次越冬隊、 第48次越冬隊	東京都板橋区	
	設営一般 (多目的 大型アンテナ)	やま ぐち ゆう じ 山 口 雄 司	35	NECネットエスアイ株式会社 テレネットワークス事業本部		神奈川県横浜市	
	" (LAN・インターネット)	もり さわ ふみ えい 森 澤 文 衛	37	KDDI株式会社 ソリューション事業統括本部		千葉県市川市	
	" (建築・土木)	い くま えい じ 井 熊 英 治	38	ミサワホーム株式会社 販売企画本部	第47次越冬隊	大阪府茨木市	
	" (装備・フィート・ アシスタント)	ひ ぐち かず お 生 樋 口 和 生	46	特定非営利活動法人 北海道山岳活動サポート		北海道札幌市	
" (庶 務)	さ くま けん じ 佐久間 健 治	31	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所事業部		宮城県名取市		



区分	担当分野	氏名	年齢	所属	隊員歴等	現住所	備考
設 営	設営一般 (建築・土木)	はし 橋 本 ひとし	45	飛島建設株式会社 東日本土木支社	第48次夏隊	千葉県袖ヶ浦市	
	〃	き 木 村 なおゆき	34	鹿島道路株式会社機械センター	第49次夏隊	埼玉県北葛飾郡栗橋町	
	〃 (装備・フィート・ アシスタント)						
	〃 (輸送)	みず の 野 まこと	35	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所事業部		東京都北区	
	〃 (庶務)	いい だ とも 子	40	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所管理部		東京都足立区	

## 第50次観測隊同行者候補者

平成20年7月10日現在

ふりがな 氏名	年齢	職名	隊員歴等	現住所	同行目的
しげはら せいじ 茂原 清二	59	国立極地研究所外来研究員	18, 19次南極観測船ふじ乗組員 28, 29, 33, 34, 37, 38, 40, 41次南極観測しらせ乗組員	神奈川県横須賀市	南極域における氷海航行に関する研究と氷海域の情報収集

## 第50次南極地域観測隊の編成

区 分	部 門	隊員数	
越 冬 隊	副隊長(越冬隊長)		1名
	定 常 観 測	電 離 層	1名
		気 象	5名
	研 究 観 測	重点プロジェクト研究観測	1名
		モニタリング研究観測	3名
	設 営	機 械	6名
		通 信	1名
		調 理	2名
		医 療	2名
		環 境 保 全	1名
建 築・土 木		1名	
	設 営 一 般	4名	
越 冬 隊 計		28名	
夏 隊	隊長(夏隊長)		1名
	副隊長(セールロンダーネ山地調査担当)		1名
	副隊長(夏期設営担当)		1名
	定 常 観 測	海 洋 物 理	1名
		海 洋 化 学	
		測 地	1名
	研 究 観 測	重点プロジェクト研究観測	1名
		一般プロジェクト研究観測	5名
		モニタリング研究観測	2名
	設 営	設 営 一 般	5名
夏 隊 計		18名	
合 計		46名	